

2012年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時：2011年11月1日（火） 15:00～15:40

場所：ベルサール八重洲

お断り：この要旨は、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、説明会でお話したことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

- Q. 下期の電子向け装置受注見通しで、海外ハードにおいて比較的大きな受注を計画している。一般的に経済状況は下期の方が厳しくなると思われるが、計画の確からしさはどうか。
- A. 電子向け装置については、国内はほとんど大型の設備投資はなく、大半は海外の案件の受注を見込んでいる。具体的には半導体の案件は韓国、液晶の案件は韓国・中国が中心であり、受注の確度は高いと見ている。
- Q. 電子向け装置の下期の営業利益率の計画が19.8%と、上期の18.3%に比べ改善する計画となっている。下期のサービス売上高比率は上期に比べ低下するにもかかわらず、利益率が改善する背景は何か。
- A. 第一にメンテナンスの売上構成が上期より改善すると予測している。第二に下期にはハードの売上計上が増えるが採算のいい案件の売上計上が期待され、ハードで利益率が良くなる。
- Q. 上期の電子向けハードの受注のうち、半導体と液晶・電子部品の比率はどうだったか。
- A. 概略で半導体が6割、液晶および電子部品が4割。
- Q. 上期の一般向け装置の受注のなかで、前期からの期ずれした案件はあったか？
- A. 大型の案件で前期からの期ずれの案件はなかった。
- Q. 電力向けの受注の増加は震災関連が中心か。震災関連の需要は来期はなくなるのか。
- A. 電力向けハードの増加の大半が震災復旧需要である。長期にわたって復旧工事を行うので、受注は来期はなくなる可能性が高いが、売上は来期も計上されていくと見込む。
- Q. 超純水供給事業で契約更新を迎えるケースが増えてくると思われる。PC・液晶の最終需要、価格、設備投資が変化してきている現在の状況が、超純水供給事業の契約更新にどのような影響を与えるのか。
- A. 需要環境や投資動向に関連して契約終了後の取り扱いが変わるとは考えていない。契約終了後は、第一に契約を更新する、第二に設備の所有権を顧客に移転してオペレーション&メンテナンス（O&M）契約に移行する、第三に設備の所有権を顧客に移転しオペレーションを当社が継続しメンテナンスは都度契約する、などのいくつかの選択肢が考えられる。いずれにしても当社は10年にわたり運転管理を続けてきており、顧客がすぐにオペレーションを行うのは難しい。当社としては基本的にO&M契約に移行していくことで利益を確保していくことを志向していく。
- Q. O&M契約の場合、最低稼働保証はついているのか。またバランスシートは小さくなるの

か。

- A. オペレーションについては当社の従業員が常駐して運転管理を行う。メンテナンスについては、契約は長期になるが、単年度ごとに消耗品、タンク、ポンプなどメンテナンスするアイテムを決めて順次メンテナンスを行っていく。国内ではすでにメンテナンスの一括契約を行っており、その延長線とご理解いただきたい。また基本的には設備は顧客に資産を移転するのでバランスシートは小さくなる。
- Q. 超純水供給事業の海外展開の可能性について、近い将来実現の可能性はあるか？
- A. カントリーリスク、為替リスク、回収リスク、商習慣・文化の違いなどのリスクをどうとるかが課題である。まずは収益を上げられるかが基本になるが、リスクを極力排除することができ、国内と同じような条件の案件があれば取り組みのひとつとして視野に入れていきたい。今下期に実現する案件はないと思うが、将来的には全く否定するものではない。
- Q. 昨年の今頃、自社株買いの実施を発表しており、今年もキャッシュフローは昨年同様余力があると思われるが、今後の方針を聞きたい。
- A. 資金については、今後の事業展開を考えて超純水供給事業や、中長期的には M&A やアライアンスにも使っていく。全体のバランスを考えながらその都度自社株買いも考えていきたい。
- Q. 今まで韓国では液晶分野に強かったが、今回半導体の案件を受注したということで、競争条件がどのように変化したのか聞きたい。
- A. 韓国の半導体についてはずっと以前には実績があったが、しばらく液晶に特化していた。今回、韓国の顧客に技術力、品質管理、施工管理などが十分に評価され、当社が競合先よりも優位性があると判断していただいた。また半導体製造プロセスに入っていくユニット装置もあわせて評価され採用に至ったと考えている。競合は今後も続くが、当社の優位性を評価いただいたので、今後もリピートオーダーが大いに期待できる。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。